

# 山風

やまかぜ

平成20年7月1日

お盆号 第35号

発行：日蓮宗 本立寺

〒192-0902

東京都八王子市上野町11-1

電話 042-622-2262

FAX 042-622-2106

Eメール honryuji@oak.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.honryuji.com

## 水無月所感

住職

及川玄一

数日前にお寺の年次役員会が無事に終わり、何となくほっとしています。一年に一回の会合ですが、宗教法人の規則に則った義務としてだけでなく、過去一年間のお寺の運行全般を役員の方々にご承認いただけたことで旧年度にけじめがつけられた気がしています。

お陰さまで平成十九年度は特別懸念する問題もなく順調に過すことができましたが、例年と比べて特徴的だったのはお葬儀(四九軒)、ご法事(二六二軒)がとても多かったことと、それにともなってお塔婆(三三五八本)をお上げになる方が増えたことでしょうか。お経の教室も五年目になります。ホームページを通じて申し込んで下さる方も増え、遠くは千葉、横須賀、川崎などからもご参加下さり、とても嬉しく思っています。

昨今の社会状況を反映してかご法事やお葬儀を内々で行う方が増えていま

すが、小さなお子さんをお連れになってお参りする方が多く感じています。そのようなよい習慣は継続していただき、お寺で仏さまやご先祖に触れさせることで言葉ではなく体で情操教育をしていただければと思っています。

新年度も日常の法務、作務、事務を中心にしつかりと務めていかねばと心しておりますが、前号、また、今号でもご報告させていただきましたようにお寺を支えてくれる山務員に



京都本山妙覚寺団参 参加者の皆さまと

大きく移動がありました。何よりも二四年間、本立寺に仕えて下さった金子上人はじめ清水、加藤の両上人が故郷のお寺に戻ったことは色々な面で影響があります。金子上人には唯々今までの献身に感謝するのみであります。その穴を埋めつつ努力して行かねばならないでしょう。特に直近の問題としてはお盆の柵経回りがあります。年々ご自宅にお伺いするお檀家の数も地域も増えており、迎え火の一三日から送り火の一六日の期間、特に一六日はお施餓鬼ですからその間に四〇〇件を超

新年度にお寺が計画する特別な事業はありませんが、先の役員会でも暫し話題になったことにお寺の開山(創立)四五〇周年があります。本立寺の創立は永禄九(一五六六)年ですから今から八年後の平成二八(二〇一六)年がちょうど開山四五〇年に当たります。現段階においては特別な行事や事業を考えていませんが、今年以降はそのことを頭に置きつつお檀家方がお寺の長い伝統を感じ、それを誇れるような記念事業ができればとも思っています。

私も住職となつていつしか一〇年目をスタートしています。慢心を初心に、私心を仏心に置き換えるよう心がけながら努めていきたいと思えます。雑駁ですが最近の所感を申し上げ、巻頭言にさせていただきます。お施餓鬼法要にはぜひお参り下さい。お待ち申し上げます。

\*\*\*\*\*

**お盆**

お盆中、境内でお花・お線香を販売しています。どうぞご利用下さい。

お仏壇のそうじをして清々しくご先祖さまと過しましょう

\*\*\*\*\*

### 授学無学人記品 第九

この新聞に「学無学がくむがく」というコラムがありますが、今回お話しするお経のタイトルから引用して付けたものです。「学無学」とは「学」と「無学」を合わせた言葉です。今の私たちの言葉では無学というと学問がないこと、知識不足を意味しますが、元来の仏教ではまったく逆の使い方をしていました。

「無学」はすでに学ぶことが無いと解釈し、「学」は「有学」とも書いて、学ぶことがまだ有る人と理解してまいりました。今とはまったく逆なわけです。

## 法華経二十八品

### ◆その教えのポイント◆

無学はすでに学ぶことが無いと解釈し、「学」は「有学」とも書いて、学ぶことがまだ有る人と理解してまいりました。今とはまったく逆なわけです。

それではここでいう学ぶことが有る、無しの学ぶこととはいったい何なのでしょう。お釈迦さまの弟子を学と無学のふたつのグループに分けたわけですから、仏さまのお説きになつたことを本心に学び尽くしてその核心を理解した人と、いまだそこに到っていない人達ということになります。したがって何はお釈迦さまの教え、すなわち仏法ということになります。お釈迦さまのお弟子といつてもすべての弟子が教えの核心を理解していたわけではないのです。理解度においては様々な段階の人がいたということになります。考えてみれば



は今の私たちもまったく同じです。お釈迦さまの教えをとてよく理解し実践している人もいれば、分かったつもりでまったくおかしな行いをしてる人もいます。

しかし、お釈迦さまはこのお経の中で学も無学も分けへだてなく、将来に仏となることを保証したのです。この将来の成仏の保証を授記といます。ですからこの章に「授学無学人記品」と付いているのはまさにそういうことです。けれども、学ぶことのすでに無い人(完成した人)無学が成仏を約束されることにはどなたも異論がないことと思います

が、学人、すなわちまだ学び足りない学の人々までもが成仏の約束を得ることにはおかしく思われるのではないのでしょうか。たしかにそう思われるのも当然ですが、お釈迦さまはその人の知恵のレベルではなく、機根に着目されたのだとしたらどうでしょうか。

ある人間が仏に成るか、凡人として終わるのか、それはその人間の心がけによるということ。もし仏を信じ疑いや迷いを捨てて心から仏の道を歩く決心をしたならば、だれであつてもやがて頂上にとどり着くことができる。体の大小や能力の多少によつて道がとぎされることなど絶対になく、だれにも可能性があるということをお釈迦さまが学と無学に対する授記を通して私たちに教えてくれたのではないのでしょうか。この章についてはこのように解釈しています。(吉)

も異論がないことと思います。が、学人、すなわちまだ学び足りない学の人々までもが成仏の約束を得ることにはおかしく思われるのではないのでしょうか。たしかにそう思われるのも当然ですが、お釈迦さまはその人の知恵のレベルではなく、機根に着目されたのだとしたらどうでしょうか。

ある人間が仏に成るか、凡人として終わるのか、それはその人間の心がけによるということ。もし仏を信じ疑いや迷いを捨てて心から仏の道を歩く決心をしたならば、だれであつてもやがて頂上にとどり着くことができる。体の大小や能力の多少によつて道がとぎされることなど絶対になく、だれにも可能性があるということをお釈迦さまが学と無学に対する授記を通して私たちに教えてくれたのではないのでしょうか。この章についてはこのように解釈しています。(吉)

### 金子 随容



思い出せば、昭和59年の3月、春の彼岸がまもなく終わろうとする頃、私は本立寺にやってまいりました。その時点ではこのように長期に渡り本立寺にお世話になろうとは思ひもありませんでしたが、結果的には四半世紀近くの歳月をここで過ごすことになったのです。その間、及川真介上人、周介上人、そして現在の玄一上人と三代の御前様に仕え、寝食を共にした同僚は20名以上にもなります。私事では、昭和61年・平成元年の2回、日蓮宗荒行堂へ入行、また、昭和62年には出身地伊豆の寺院に入寺、住職としての務めもさせていただいておりました。隨身でありながらこのような経歴を持たたのも本立寺の寛大な処遇があったからこそと大変感謝しております。この度いよいよ八王子を去ることになりましたが、24歳でこの地に来て24年間、まさに人生の半分であり、かつ人生の重要なこの期間を、本立寺において、そして本立寺に関わる多くの方々と共に過ごせたことは、掛け替えのないことであり、誠に幸福なことであったと思っております。最後になりましたが、お世話になった皆様方に心より御礼を申し上げます。

### 新任 山 出立



私は、九州福岡の小倉から参りました。実家は緑豊かな山あいにある浄泉寺という小さなお寺です。この度、良いご縁をいただき4月より本立寺様で仏道修行をさせていただいております。



お寺の生活では知らないことや経験したことのないことに次々と出会い、その度に自分の無知さと無能さを痛感しております。しかし、同時に新しい発見の連続で自分自身へのとても良い刺激になり、もっと知りたい、もっと勉強したい、もっと能力を高めたい、そんな気持ちに自然とさせてくれます。またその資料も時間もあり、指導して下さる方もいる、こんなにすばらしい環境にいられることをとても嬉しく感じております。自分の今の環境を最大限に生かし、今できることをやり、少しずつでも確実に成長していきたいと思っております。常に感謝の気持ち、奉仕の心を忘れずに向上心もち、これからの日々を皆様と共に精進して参ります。どうぞよろしくお祈りいたします。

### わた なべ こうじ 渡 邊 晃 司

本立寺ホームページ <http://www.honryuji.com>

### 平成19年度 本立寺護持会決算報告

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

護持会加入軒数 683軒  
総口数 2,151口  
(1口:1ヶ月200円)

収入	5,174,800
支出	5,781,071
宗派課金	1,324,876
墓地・境内清掃、整備	3,674,515
寺報・通信費	781,680
差引(不足)	606,271

以上に相違ありません。  
本立寺住職 及川 玄一

皆様よりお預かりいたしました護持会費の会計報告をいたします。

護持会費は、お寺の維持管理のために上記のような項目で支出させていただいております。今後、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

なお、不足分につきましては、お寺の一般会計より支出しております。

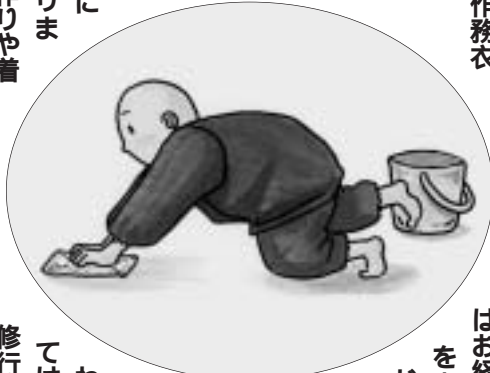
# 学無学

おしえて下さる。

Q、お坊さんはどうして作務衣を着ているのですか？

A、作務衣とは僧侶が掃除や庭仕事などの作業をする時に身につける衣服であります。

衣の上に羽織ることができるよう、上衣の袖が太く作られ、袖に埃やゴミが入らないようにゴム紐などで絞ってあります。そのゆつたりとした作りや着やすさから部屋着やファッションとして



と思います。(梅)

修行の功德がいただけること

使用する方も多いようです。

作務とはお寺の用語で掃除・草取りなどの清掃活動のことをいいます。務めを作ると書くように自発的に務めを行うのが作務です。すなわち「作務行」

はお経を読む「読誦行」や経文を書き写す「書写行」と同じ大切な修行の一つであります。

我々はお参りの方に気持ちよくお寺にきていただきたいとの思いで作務行をさせていただいております。

掃除は誰かの仕事と思わず、率先して努めてみてはいかがでしょうか。

### 「読経教室」秋の部開催

平成20年度「読経教室」の秋の部が、8月下旬より始まりです。

まずは「中級コース」を8月20日(水)より行います。(中級コースの対象者には個別にご案内をいたします。)



読経教室中級コース修了者を対象に「読誦行」を行っています。(毎月2日・22日)

また、「初級コース」は10月18日(土)より行います。(初級コースの申込み案内は次回の山風に同封いたします。)

### 春の「読経教室」修了者

この春に行われました「読経教室」の初級コース(参加総数21名)・中級コース(参加総数8名)を、それぞれ修了された方々です。皆様ご苦労様でした。

#### 【初級コース】6月4日終了

- 木村 陽二 斉藤ハルミ 三枝 玲美
- 瀬沼ゆり子 山崎マツエ 安田 富子
- 江口 直司 以上7名

#### 【中級コース】4月27日終了

- 小玉 照代 池田 全子 以上2名

### 投稿 短歌

大谷 啓造様

花祭り 天上天下 指さして

甘茶を浴びて 涙をかくす

梅檀の 香りほのかに 聞こえ来る

かの人感じ 心安らぐ

枝垂れ咲 身延詣での 春の日に

安らぎのなか きざはし登る

よみがえる 五重の塔の 心柱

身延の山の 千本杉と

落葉焚き 炎くすぶる 参道に

煙ただよう 敷石を行く

七面山 富士の束光 拝すれば

呵責の思い 心洗わる

久遠寺に 信徒や門弟 育成し

我身なぞらえ 法華経を説く

# ニュースと行事案内

## 当山 施餓鬼会

7月はお盆の月です。当山では、お盆の最終日、7月16日にお施餓鬼の法要を営みます。多数の方のご参拝をお待ちしています。

- 7月16日(水)午後12時30分 お斉膳
- 1時30分 法話
- 2時30分 法要

## 八王子とつろつ流し

平和を祈念して行われる「とつろつ流し」も回を重ね15回目、今では八王子の夏に欠かせない行事となっています。

夏の夕べ、皆さんも川面に浮かぶ灯ろうに願いを込めてみませんか。

- 日時 7月19日(土)
- よさこいソーラン・和太鼓 午後3時30分
- 平和祈念追悼法要 午後6時30分
- 場所 八王子市役所前河川敷広場

とつろつ流し希望者は、事前にお寺まで、もしくは当日会場にてお申し込み下さい。

一灯 1,000円

## 奉納御礼

一、本尊厨子

西東京市 石崎 ヤス子 様



一、案内用衝立

八王子市 原島 源次 様

## テレビ番組の収録

本立寺の境内にてテレビ番組の収録が行われました。

3月3日 金曜プレステージ

『秘密な奥さん』 主演 藤原紀香

5月5日 TVチャンピオン2

『なでしこ礼儀作法王選手権』

いずれも放送は終了してしまいましたが「TVチャンピオン2」はDVDがありますのでご覧になりたい方は寺務所までお申し付け下さい。

八王子市がテレビなどのロケ地として市を積極的にプロデュースしているせいか、ロケの問い合わせを受けることが増えました。



本堂前にてTVチャンピオンの収録

## 京都団参(巻頭に写真)

4月3、4日、新宿の常圓寺様と合同で京都本山妙覚寺を参拝する団参を行いました。満開の桜に迎えられ、総勢49名、妙覚寺の先師法要にて本立寺第二十六世である及川真学上人の第十七回忌の供養に列席しました。法要翌日は京都近郊を散策し、久しぶりに京都を訪れた方も多く一同旅を満喫して帰ってきました。

# 暦

こよみ

7月(文月)

2日 読誦行

3日 写経会

11~16日 お盆 棚経

16日 「施餓鬼会」

19日 とつろつ流し

22日 読誦行

8月(葉月)

2日 読誦行

7日 写経会

12日 題目講

13~16日 旧盆

20日 読経教室「中級コース」開始

27日 松葉谷法難会

文応元年(二六〇)日蓮聖人は鎌倉松葉谷の草庵で念仏者達に襲撃される。

9月(長月)

2日 読誦行

4日 写経会

12日 龍口法難会

文永八年(一二七)日蓮聖人は龍ノ口にて処刑されそうになり、その後佐渡に流罪となる

12日 題目講

20~26日 秋彼岸

※7月は12日の題目講・9月は22日の読誦行がありません。ご注意ください。



## 墓地 室内墓 永代供養 納骨壇 希望者募集

ただいま当山に墓地をお求めになる方(永代使用者)、並びに、釈迦堂内の「室内墓」を使用なさる方を募集しています。ただし、これらの墓地をお使いいただくには、本立寺の檀家とすることが前提となります。



現在ある先祖代々の墓を将来継承することが出来ない方や新たに墓を作っても後継者がいない方のための共同の墓所が釈迦堂に併設される「永代供養塔」です。この供養塔に埋葬された方のご供養は、お寺が永代に渡って責任を持って行います。ご使用に当たっては永代供養料をお納めいただくこととなります。

ご遺骨を一時的にお預かりするための「納骨壇」が釈迦堂内に設置されています。この納骨壇は檀家以外の方もご利用いただくことができます。

お問い合わせは寺務所までお願いいたします。